

ダンス部活動経験者の卒業後のダンスとの関わり方に関する研究 ーライフステージに着目してー

柴田理沙子（筑波大学大学院）

【研究背景・目的】

これまで行われてきた生涯スポーツ参加や継続を規定する研究の多くは、学生期における運動部活動経験に焦点が当てられている。しかし、ダンスには他のスポーツとは異なり、活動者の大半が女性であることや創作活動が含まれるという特徴がある。そのため、女性特有のライフステージが卒業後の活動実施に影響を与えているのではないかと考えた。加えて、創作活動経験はダンス以外の活動へ影響を与えるのではないかと考えた。ダンスとの関わり方が変化する場合、ライフステージのどの時期にどのような要因が影響を与えているのだろうか。ダンス活動とライフステージとの関係性を明らかにすることは、今後ダンスとの多様な関わり方を検討する際の一助となると考えられる。そこで、本研究では高校・大学期におけるダンス部活動経験者の現在のダンス活動実施状況と余暇活動を把握し、卒業後のダンスとの関わり方の変化を明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）コンクール部門出場経験のある社会人 282 名を対象に Google フォームを用いたアンケート調査を行った。

【調査項目】

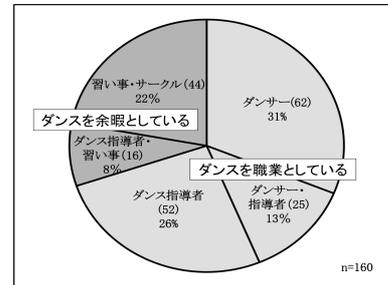
- ・ 回答者の基本的属性について（性別、年齢、婚姻・子どもの有無、ダンス歴等）
- ・ 卒業後のダンス活動について（活動の有無、活動形態、活動開始理由、活動継続理由等）
- ・ 現在のスポーツ活動について（活動の有無、活動内容、活動開始理由、活動継続理由等）
- ・ 余暇生活について（余暇生活パターン）

【結果と考察】

- ・ 基本的属性
回答者は女性 246 名 (87%)、男性 36 名 (13%) と、女性の回答者が圧倒的に多い。20 代の回答者は 224 名で全体の 79% を占めている。婚姻状況は、未婚 208 名 (74%)、既婚 69 名 (24%)、婚約中 4 名 (2%)。ダンス部活動所属歴は、女性は高校・大学期どちらも所属していた者が約半数であるのに対し、男性は大学期だけの所属が多い。

・ ダンス実施状況

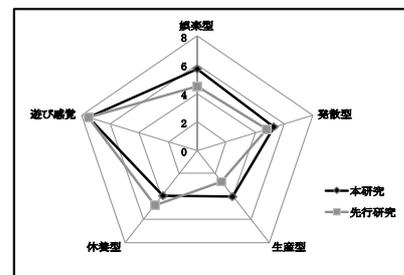
現在のダンス活動実施者は 160 名 (57%) であり、回答者の約半数がダンス活動をしていた (n=282)。ダンス活動実施者の活動形態を表したものが以下の図である。



ダンス活動を職業としている者は 114 名 (72%)、余暇活動および生涯スポーツとしてダンスをしている者は 44 名 (28%) であった (n=160)。余暇活動および生涯スポーツとしてのダンス実施者のうち 30 名 (68%) は卒業後にダンス活動の一時停止期間を有していた。活動停止要因としては、20 代は「環境的要因」(仕事や家事との両立)、30 代は「身体的要因」(妊娠や怪我)、年代に関係なく「活動環境要因」(活動場所の有無や仲間の存在)が見られた。

・ 余暇生活のパターンについて

中村ほか (2017) による日頃の余暇活動状況や意識の傾向をつかむことができる質問項目を本研究においても設定し、結果を比較したものが以下の図である。



「休養型」(疲労回復や休息のための活動を好む)は先行研究より低く、「娯楽型」(楽しみや趣味の追求に積極的な志向)と「生産型」(ものを作ったり、教養を高めたりする活動を好む)は、先行研究より高い傾向にあった。「生産型」に関しては差異が一番大きく見られた。そのため、ダンス経験者は、積極的な余暇活動への参加と創作活動を好む傾向があると考えられる。そしてこの結果には、ダンスによる創作活動経験が関係していると考えられる。

【引用文献】

中村年男・曾我山敦介・森実紀・近藤盛代 (2017) 大学生の余暇生活の実態と意識について一人ひとりの健康及び福祉の増進を目指して. 42 (1) : 84-92.